

＊2002年1月以降に製造された製品は、取扱説明書の1部が変更になりますので、本書をご使用ください。

●P. 3－8～P. 3－15

■システムメニュー

システムメニューに含まれるユーティリティにより、スキャナをセットアップすることができます。システムメニューにアクセスするには、下記のバーコードをスキャンするか、【FUNC】キーを1度押し、次に【*】キーを押してスキャナをリセットし、電源投入を示すビープ音（ピポパ）が鳴った後、10秒以内（バナー画面が表示された状態）に【FUNC】キーを1度押し、次に【BK】キーを押します。または、通常のバーコード読み取り状態(SKU:画面)で下記バーコードを読ませてもシステムメニューへ移行します。



システムメニューへ移行

システムメニュー(Phaser Setup)

Phaser Setup
0. System Setup

図3-8 セットアップ画面

上矢印キーまたは下矢印キーを押すと、メニュー画面がスクロールされ、次のセットアップオプションが表示されます。

- 0. System Setup
- 1. App. Control
- 2. Parameter Control
- 3. System Status
- 4. Version
- 9. Return to App.

対応する数字キーを押して、セットアップオプションを選択してください。

システムセットアップ(System Setup)

オプション	記述
0. Set Com Protocol -RS232/Synapse -MCL NET -Back to Com Protocol	デフォルトアプリケーションで使用するホストを設定します。画面に現在のホストタイプが表示されますので、RS-232 やシナプスホストの場合は [RS232/Synapse] を、MCLホストの場合は [MCL Net] を選択できます。デフォルトの設定は [RS232/Synapse] です。 「MCL Net」を選択すると、スキャナは、MCL Link が実行されているホストと通信できます。 「RS232/Synapse」を選択すると、システムのインストール時の設定である標準的なRS-232 ホストまたはシナプスホストが選択されます （この場合、接続されているケーブルが自動的に検出され、シナプスホストとRS-232ホストのいずれかが使用されます）。
1. Set RF Channel	スキャナとクレードルとの間の通信で使用するRF チャンネルを設定できます。 Channel: 54 New Channel: __ 図3-9 RF チャンネル画面 新しいチャンネル番号を入力してから【ENTER】キーを押します。変更成功の場合は、「ピロピロ」とビープ音が鳴ります。変更失敗の場合は、「ピピピピ」とビープ音が鳴ります。チャンネルを変更する前に、スキャナとクレードルのペア設定が完了していること、伝送範囲内にいることを確認してください。RF チャンネルは02 ～81の範囲が設定できます。

システムセットアップ(System Setup)続き 1

	- RF スキャナを隣接して使用する場合、異なるRF チャンネルを使用してください。 - その場合、目安として、02 単位でチャンネルを設定してください。 - 既に、2.471GHz ～2.497GHz 帯の無線機器を導入されている場合、RF チャンネルは02 ～69 を設定してください。
2. Set Contrast	画面のコントラストを設定します。画面に現在のコントラストレベルが表示されますので、上矢印キーまたは下矢印キーを使用してコントラストを変更できます。デフォルトのコントラストレベルは4 です（設定範囲：0 ～7 。0 は最も明るい設定。7は最も暗い設定）。変更をキャンセルするには、【FUNC】キーを1 度押し、次に【BK】キーを押します。変更を確定するには、【ENTER】キーを押します。 Display Contrast: 4 UP, DN, CL, EN 図3-10 コントラストの設定画面
3. Set Scanner ID	スキャナのMCL Net アドレスを設定します。画面に現在のID が表示されますので、新しい値（1 ～254 ）をキー入力できます。 Enter Scanner ID: (001 - 254) 001 図3-11 スキャナID の設定画面
9. Back to Main	システムセットアップモードを終了してメインメニュー(Phaser Setup)に戻ります。

アプリケーションコントロール(App. Control)

オプション	記述
0. Load App	スキャナを、ホストからのMCL Link コマンドを監視するモードにします。スキャナがこのモードに移行していないと、MCL DesignerのProject Send オプションを使用できません。ユーザ独自のアプリケーションからスキャナをこのモードに移行するには、NS コマンドを実行します。 Load New App <Enter>=Yes <BK>=No 図3-12 ホストモードへの移行画面 選択を確定する（Yes）には【ENTER】キーを押し、キャンセルする（No）には【BK】キーを押します。MCLNet ホストモードに入る場合、データが失われる可能性があることを通知する確認用のメッセージが表示されます。そのまま処理を続けるには【ENTER】キーを押します。キャンセルするには【BK】キーを押します。
1. Set Default App	前述したデフォルトアプリケーションを復元します。デフォルトアプリケーションは、ダウンロードされたすべてのアプリケーションを上書きします（スキャナにロードされたアプリケーションに不具合があった場合、このオプションを使用してスキャナの機能を復元できます）。

アプリケーションコントロール(App. Control)続き 1

	デフォルトアプリケーションに復元する前に、この処理を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。 Reset Default App? <Enter>=Yes <BK>=No 図3-13 デフォルトアプリケーションへのリセット確認画面 選択を確定する (Yes) には【ENTER】キーを押し、キャンセルする (No) には【BK】キーを押します。
2. Enable AutoLoad AutoLoad App. -Enable -Disable	デフォルトアプリケーションでアプリケーションの自動ダウンロード機能が有効になります。これにより、箱からスキャナを取り出し、クレードルとペア設定し、スキャナをクレードルに装着すれば、ユーザ独自のアプリケーションをスキャナに自動的にダウンロードできます。 この機能を正常に動作させるには、MCL Link が実行されているホストにクレードルを接続する必要があります。さらに、ご使用のホストで特定の場所にあるファイルが適切に設定されている必要があります (この機能を使用する場合、弊社代理店までお問い合わせください)。適切な方法でホストをセットアップしなかった場合、スキャナは通常の充電モードに戻ります。 Auto Load App? Enebled 図3-14 オートロードアプリ画面

アプリケーションコントロール(App. Control)続き 2

	「Enabled」を選択すると、この機能が有効になります。「Disabled」を選択すると無効になります。このオプションが影響を与えるのは、デフォルトアプリケーションだけです。ユーザ独自のアプリケーションには影響しません。
3. System Code	スキャナオペレーティングシステム(ファームウェア)をアップデートします。 Load New System Code <Enter>=Yes <BK>=No 図3-15 システムコード画面 選択を確定する (Yes) には【ENTER】キーを押し、キャンセルする (No) には【BK】キーを押します。
4. Base Station Code	クレードルのオペレーティングシステム(ファームウェア)をアップデートします。 Load New Base Code <Enter>=Yes <BK>=No 図3-16 ベースステーションコード画面 選択を確定する (Yes) には【ENTER】キーを押し、キャンセルする (No) には【BK】キーを押します。
9. Back to Main	アプリケーションコントロールを終了してメインメニュー(Phaser Setup)に戻ります。

パラメータコントロール(Parameter Control)

オプション	記述
0. Scan Parameters	スキャナが、パラメータバーコードをスキャンできるモードにします。 通常のバーコード読み取り状態(SKU:画面)でも設定可能です。 Scan Parameters <FUNC><BK> to quit 図3-17 スキャンパラメータ画面
1. Set Default Params	スキャナのパラメータをデフォルトに戻します。デフォルトのパラメータは、スキャンされたすべてのパラメータを上書きします。デフォルトのパラメータにリセットする前に、デフォルトアプリケーションへのリセットを確認する画面と同じような確認メッセージが表示されます。 Reset Default Params? <Enter>=Yes <BK>=No 図3-18 デフォルトパラメータの設定画面
9. Back to Main	パラメータコントロールを終了してメインメニュー(Phaser Setup)に戻ります。

システムステータス(System Status)

オプション	記述
0. Battery Check	バッテリーの状態をチェックします。スキャナは、[Good] 、[Low] 、[Dead!] のいずれかで応答します。バッテリー状態が[Low] の場合は、充電が必要になるまでに約25 回のスキャン操作が実行できることを示します。バッテリー状態が[Dead!] の場合は、スキャナはこれ以上スキャンサイクルを実行できないため、すぐに充電する必要があることを示します。 Battery Status Good 図3-19 バッテリーの状態画面
9. Back to Main	システムステータスを終了してメインメニュー(Phaser Setup)に戻ります。

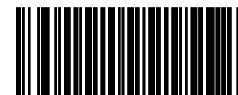
バージョン (Version)

オプション	記述
0. Scanner Version	動作しているMC Lとスキャナの現在のバージョンを表示します。 Scanner: NBRVRAAx MCL: x.xx 図3-20 スキャナバージョン画面
1. Credle Version	動作しているクレードルの現在のバージョンを表示します。 Cradle: NBRVCAAx 図3-21 クレードルバージョン画面
9. Back to Main	システムステータスを終了してメインメニュー (Phaser Setup)に戻ります。

● P. 5－6 8

Codabar (NW-7) スタート・ストップキャラクタ転送

Codabar (NW-7) を読み取った際、スタート・ストップキャラクタを転送するかどうかを設定します。



許可



禁止

● P. 付-5

